

## SS セミナー活動報告

SS セミナーとは？

SS セミナー（Social Science Seminar）は、社会科学の好きな同窓生の集まりです。

SS セミナーは Social Science を略し、会の名称としました。

SS セミナーは 5 グループに分かれて読書会や様々な活動を行っています。

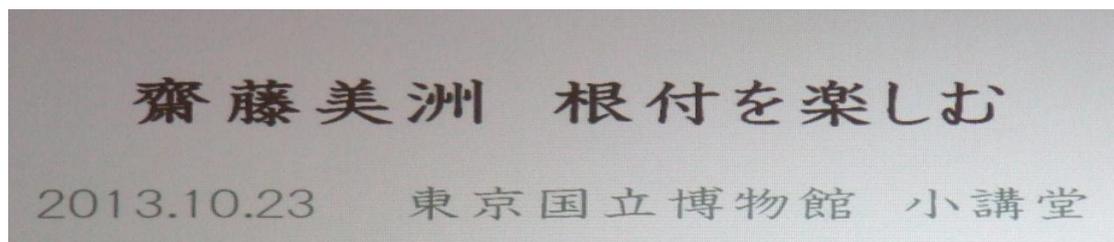
SS セミナーは、年一度秋に合同の日帰りツアーを行います。

今まで国会、日銀、隅田川クルーズなど様々なところを見学してまいりました。

さて今年は何？

### SS セミナー 2013 年秋の研修会

～～日本が誇れる根付の世界～～



上野韻松亭にて

今年の SS セミナー秋の研修会は、芸術、文化、歴史そして秋を満喫する上野で、10月23日に行われました。

参加者約 20 名。韻松亭で美味しいお食事をいただいた後東京国立博物館に移動し、1時半より小講堂で1時間根付作家齋藤美洲氏の講演を聞きました。実物の作品や展示されている作品を鑑賞しました。



東京国立博物館小講堂で講師紹介

根付は江戸時代根付、帯締め、印籠と3点セットで広く使われていました。江戸時代につくられた根付は、明治時代以降大半は海外に流出してしまいました。日本人には評価されなかった美術品が海外では「NETSUKE」として高く評価され多くの蒐集家があります。根付けとは？その魅力とは？作家の立場から話してくださいました。

根付は大きさや形状、材質に一定の制約があります。紐を通すための穴があいていること、そして芸術品ではあるが使用可能なものであることが求められます。

「制約の中の自由」こそが根付の、そして日本独自の感性じゃないかと思います。腰に付けたときに、どんな角度から見ても人の興味を惹くように作るんです。どこから見ても完璧である必要があるのです。ここに宇宙が凝縮され「掌中に宇宙を創造する」をキャッチコピーにしています。その中にこの国の美学があります。また根付は彫刻でありバランスが基本です。わたくしの根付は全部立つのです。

講演後私たちも作品を手にとって立たせてみたり、材質によって違う作品の感触を手の中で楽しみました。

博物館の展示室に移り高円宮コレクション、江戸時代の根付を解説付きで鑑賞しました。

ここに斎藤美洲氏の作品の一部をご紹介します。(写真提供： Gallery 花影抄)



是空 (象牙)



豊年踊り (象牙)



お立ちなさい (黄楊)



愛とこしえ (象牙) …鳥がモチーフ

お問い合わせは同窓会事務局まで